



繪本豊臣勲功記

五編
貳

へ遠3
2209
42



門遠 13
號 2209
卷 42

繪本豊臣勲功記五編卷之貳

目錄

小西^{こにし}_や九郎^{くわに}謁^{てつ}秀吉^{ひでよし}約^{やく}仕^し

屬^{しゆ}重治^{ちゅうぢ}遺言^{いごん}

中國^{ちゆうごく}勢^{せい}贈^{くわん}程^{ちやう}三本^{さんぽん}城^{じやう}陷^{けん}謀^{ぼう}

屬^{しゆ}賀相^{がさう}敗^{たい}軍^{ぐん}

繪本豊臣勲功記五編卷之貳

別所滅亡秀吉圍鎮播州

属 築城姫路

蜂浪合戦浮田基家敗死

属 謀船退敵



繪本豊臣勲功記五編卷之貳

江戸 櫻澤堂山 編輯

小西元九郎錫秀右約仕属重治遺言

螺獅苗生を今うへて大海に帰さる响の苗奥と成て登天すともや。茲
ハ小西元九郎を高家の中の者なり。目今浮田家の使節と地り其
軀を及ぶくお扮く。播州平山の陣小おむる。浮田直家の使者なる
よ。汎前当に普通せり。秀吉所て速悟也。定めく降参の使者
る。小西元九郎とせよと呼投る。元九郎聽する氣絶もあけ。秀吉は前
に投身し。汎前守元九郎がその品の賤かぬと骨棟の俾へたを懸
く視む。御高着たる相顔する由忠詞辭に問く曰く。いづる事
何るや。和泉守より使者を遣し。押汝が姓名を聞き。やといふ

と流丸希恭しく言らく。小夫のすまむら浮田の家人小西洋丸希とま
 うと者主人直家遠道あつたふ。織田家の旗下に属せん。小夫と
 りて使者たじむ。憐る荒州公の沖吹嘘を帖えたる。うらう人津養
 深のやうとと。調約く調舒る疾吾所て願と傾け。直家自方に帰
 せんこと。殊に神妙なりと。いとも。最末右府殿めさる。刻願その沖下
 調小随と。却く遭次款討を。そのさう。比毛利と。勾引く上
 月を攻く。尼子氏亡が。自軍の脅口を減と。是會浮田直家の
 初ると。後の本為ある。若苟も探題と。て中國邊作の命。被
 里。ゆら當國の別所を。怒して。兵作。彼茶に。臻り。一番。駈小直家
 と。敵く。藝別。すも。進ず。人。む。分。横。を。に。極。う。て。別。下。の。滅。亡。迄。に
 けあり。次。舟。に。浮。田。の。身。に。及。せん。と。れ。と。幸。て。災。を。適。き。ん。の。

際。参。あ。る。人。々。直。家。平。生。疑。心。深。く。表。裏。の。武士。と。聞。及。ぶ。然。し。れ。を
 目。今。の。帰。服。を。と。と。毛。亦。及。と。事。あり。ぬ。登。し。吾。身。不。屑。あり。とい。と
 も。方。に。西。國。の。進。補。使。と。て。勝。敗。總。ら。く。若。身。に。管。せ。り。遠。上。さ。び。く
 く。陪。人。の。實。否。弘。明。さ。さ。む。ん。バ。若。一。言。休。ま。し。と。ト。汝。毛。使。者。の。命。成
 承。く。これ。ま。で。来。る。材。費。あ。を。毛。向。後。主。人。直。家。が。及。せ。さ。る。の。證。あり。や。
 不。存。と。咄。れ。と。同。語。く。是。小。西。丸。が。多。勝。行。す。一。隻。頬。に。笑。し。て。那。の。意
 任。ぬ。詞。と。所。織。田。家。に。お。い。く。荒。州。侯。を。多。智。寛。勇。鬼。神。も。欺。く
 兵。將。あり。と。兼。所。お。い。び。が。目。下。の。命。せ。し。聞。し。に。遠。く。未。練。あり。総
 て。戦。國。に。將。し。る。もの。誰。も。不。志。の。う。ら。う。う。ん。や。各。時。運。と。於。さ。る
 う。ち。あ。る。は。小。西。丸。に。傍。り。く。稍。大。運。の。臻。る。を。後。主。人。直。家。も。又
 怒。り。備。作。二。州。の。領。を。と。り。て。毛。も。多。く。糧。毛。足。り。雄。名。も。他。れ。下



小西
弥九郎
幸長初
筑前守
調子



調子

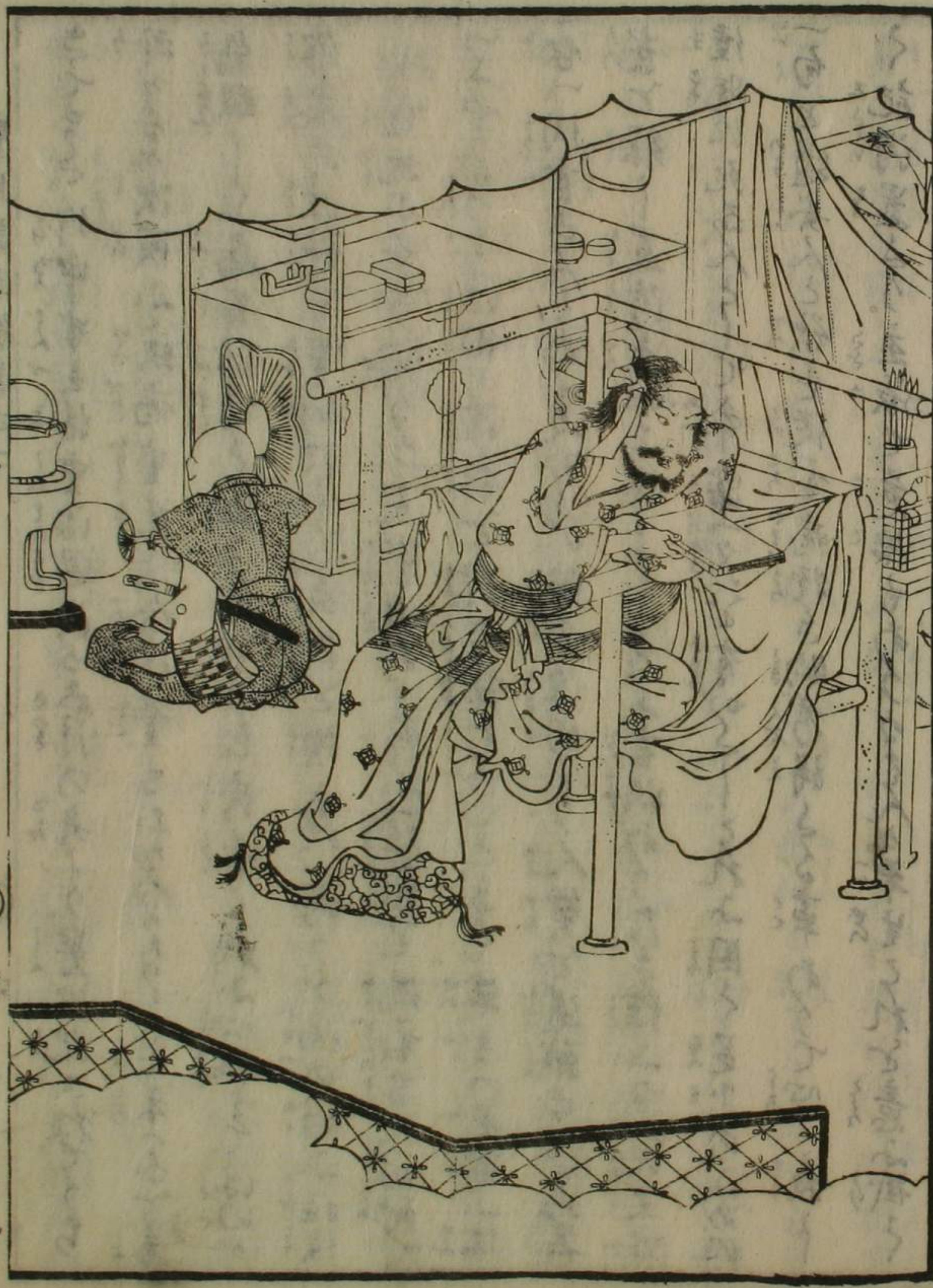
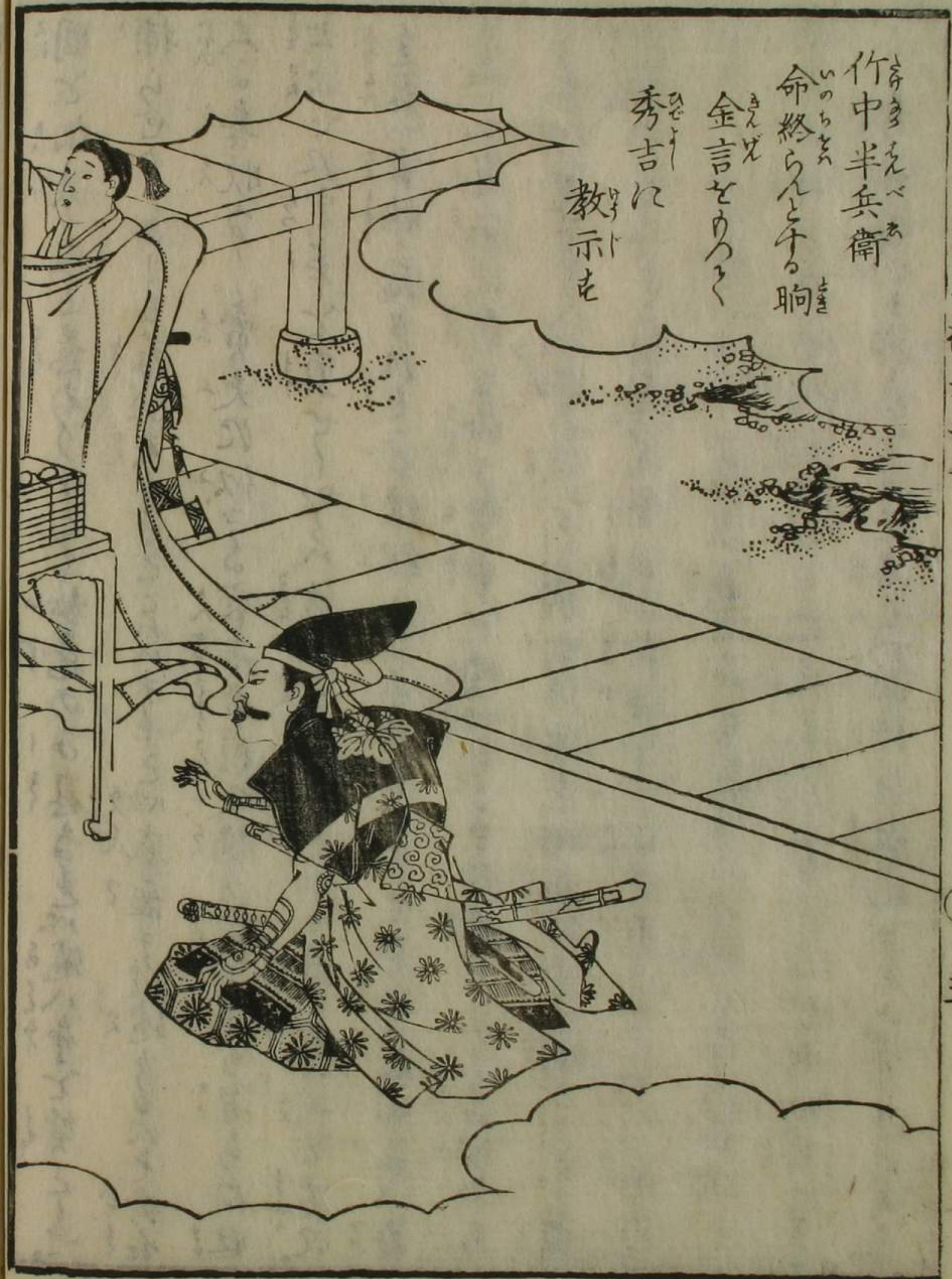
に出ひ。然ども曰方ふ大秋ありて。始終全に律雅なれば。近年毛利
 の旗下に属せん。其人として信義あく人ばつて。大功と成るべし。武家毛利
 小随ふうち。いかしを粉骨の勞と稱し。屢誠忠とほくそ。事武門の通ふ
 作らばや。去年織田家に秋討せし。武家の信義たるをり。二にひき安
 六公小帰服の意あり。つとも。一戦も遂に互の弓矢の強弱も試み。隙
 へ六丈夫の不為にあつて。因て武家一掃の弓と引まはつて。天運自然
 の理と悉し。永く織田家小帰せんと秋し。今既に毛利家の約小背いて
 安去敵に降る。天道とおそふを恐る。然るに猶も疑ひを。誓盟の
 證をせむ。やと。信不任せん。及むば。あつて小夫が所存は。然せることなく
 とも。中國征伐の魁軍とあり。秋の川郡を頑執て。日頼小忠勞せ。信
 義たも。ち。顯然たる。人頼ふ。よく察し。の人と言信。究も。裂帛に像く。

舒連ぬると秀吉所て。その辨言に感とせし。いかにも汝が重きところ。
 一程ある小似し。れども。目今誠信りて。織田敵に。歸せんと。稱する。武家
 が。初て。は。く。も。も。との。使者。小。腹。長。の。軍。と。用。ひ。ど。し。て。新。春。の。汝。と。面。談
 たる。是。武。家。が。統。領。不。信。原。本。汝。の。武。家。が。人。よ。これ。ある。事。無。討
 たる。は。真。の。大。使。と。つ。つ。あ。は。れ。況。や。天下。の。た。ら。に。織。田。家。に。使者
 と。稱。む。る。身。と。や。君。よ。汝。と。視。認。し。り。は。る。は。顯。言。に。降。参。の。預。も
 即。地。小。水。智。定。と。武。威。凛。々。と。詰。着。れ。ば。了。得。の。証。九。弁。發。と。は。
 別。を。も。げ。願。し。り。あ。つ。て。小。時。言。も。あ。り。し。が。稍。何。つ。く。首。を。搦。げ。大。張
 明。察。情。識。の。名。將。軍。は。く。あ。つ。て。中。ま。と。流。英。智。の。若。小。討。し。く。偽。詞
 と。重。き。も。益。あり。今。の。蘊。中。の。言。状。あ。る。人。小。使。も。よく。君。と。視。認。り。ぬ。
 い。へ。も。指。差。し。り。あ。つ。て。實。は。信。田。の。人。小。あ。つ。て。原。泉。別。攝。の。高

史小西如清が息子に過はる永禄十二年。堺の町人一揆して。去
殿に叛せし機命。君六つと名をせり。堺の津子役せ
らまへり。其時小史十一歳なり。茶菓の給仕しつゝ。母も小
史幼穉なり。今壯年の漢士とあり。相触已ふ事あるとも。沖
紀徳へるや。人ごとくふ造る。沖服の給。懐いた。紀徳もくは
ゆとせり。遠達使者に奉送し。その那殺之新事と。自己の
上直家が料理の才と。若年り。海へ出て。出たり。今直家が降
参として。紀ふ吹嘘する。小史初め。直家が。後及せり。證據と出
させ言を。和泉守の兄弟あり。心一校せり。人子なきに依
て一族より。養子とせ。其名を。淳田とす。稱へ家督と。讓る
る。其後男子出ず。て。と。淳田八希といふ。直家これ小家

圃と相譲るべき意あり。かく秘蔵の子息なきに。遠八希と。築として。
捕らせり。ふも。喜び。及る。こと。い。す。と。心。底。蘊。す。久。述。る。自。て。秀。長
大は喜悅あり。賣夫に似ざる言。流。量。材。故。臘。の。武。士。も。考。ら。ぬ。壯
士。殿。で。の。実。事。と。東。せ。り。か。く。人。女。小。免。と。直。家。が。降。参。の。詞。と。速。に。
主君へ言状を。た。れ。を。方。僅。謂。と。流。の。質。と。り。て。登。即。城。回。家。へ。出
ま。へ。有。係。に。我。も。汝。が。智。勇。を。傾。心。を。る。中。を。感。た。り。淳。田。小。氏
する物とせむ。人。若。小。史。へ。武。士。成。隊。さ。功。名。と。せ。ふ。違。う。や。と。最
信。功。と。ま。う。り。と。を。淳。九。希。大。小。欽。躍。あ。り。小。史。考。ら。り。荒。川。若。は
ふ。ま。の。の。執。心。あり。よ。れ。ふ。意。中。を。人。の。と。内。外。も。に。密。決。し
つ。也。附。辭。ま。う。り。て。備。前。に。歸。り。ぬ。是。天。正。七。年。六。月。中。瀬。の。驛。あり
し。秀。長。淳。田。が。降。参。と。り。て。去。去。一。注。伸。の。準。儀。と。る。こ。り。なる。

竹中半兵衛
命終らんとする時
金言せり
秀吉に
教示を



してまゝ。竹中半兵衛重治過はる五月の末より暑に犯されてうち
 別々のが。次取小疾病重なり。命の量もおぼろしく。近來ふを暑
 氣酸しく。病若深増く見えくる。白念秀右これふ心悩む。浮田が
 浮泰の注伸も。等閑にして晝夜と頷う。病の榻小極儀
 一。初抱さるること切なりしが。重治あつたふ起整。荒茶古に回對て
 つかう。是下浮田が浮泰と。折次謀ありしところ。遠きは是非不信
 一。言へ同言をんをあるが。彼令浮田より人質と送致とあり其
 半と躲し置。浮泰の法々中めらる。言状ありたき譯ふる。乃更方
 僅既に死あんとして。命露一夕と有が。これふ困る。是下のふに
 一向と遺安人と歎と。從前病難と胸考得くる事ありて。心よ愈と
 くと記得置し。主張て覚悟もあつた。平生これと意ふ。獄と

身は禍災と避りて一書と出して。通与なれば。秀右教行の泪と社。彼書
 とあむ。び推裁に。我輩股の叔より。是下の教誠を被ること。年つくとを
 くらりといふ。とと逐に。新も遠くとも。得あることも。物へは。又や最
 期に。残さる。其金言とつぐん。肯さす。と。不測や。何稀切。誠
 切と。備あ。て。閑見。の。莞尔と。笑。と。あり。賢者の。忠。誠。誠。小
 あり。我も。此。意。執。る。と。去。何。と。存。と。今。般。の。事。へ。今。一。つ。と。主。張。め。一
 頑魯さ。方。僅。先生。の。誅。書。と。閑。く。一。行。一。字。腕。腕。に。徹。せ。り。い。か。ふ。も。体
 に。随。順。せ。ん。と。淨。波。と。と。毛。に。巻。収。め。詳。謝。を。る。こ。と。時。を。過。せ。り。今。竹。中。が
 遺せし書。の。自。智。と。り。て。自。行。せ。ん。能。く。自。君。の。威。を。備。て。愈。々。征。伐。を。遂
 め。人。系。信。長。の。生。質。と。る。こ。と。發。表。に。誠。と。單。む。が。像。一。小。事。な。れ。と。も。心。に
 啓。め。く。百。遺。の。功。も。虚。と。う。人。只。平。生。の。小。心。の。准。法。侯。が。醜。道。と。呂。后。た。め

に雲らうことなるべし。禽獸盡くり矢折らば。秋國滅びて。保良保せ
らるべし。則ち。信義を獨して。書記。ひ。秀吉。を。り。悦。喜。か。念
持。扶。助。を。せ。重。治。病。悩。を。り。以。て。終。り。六。月。廿。二。日。行。年。四。十。一。を。期
と。す。播。磨。平。山。の。城。中。に。く。流。死。の。念。に。く。車。去。り。を。り。先。希。吉
と。り。め。し。加。后。福。清。片。桐。俣。悲。哭。を。り。こと。七。豆。夜。陣。の。禮。を。り。七。原。く
墓。を。追。春。懸。切。ひ。吊。ひ。たり。後。小。惜。ひ。を。り。英。雄。を。り。ぬ

中国勢贈糧之本城陷計屬賀相敗軍

虎ハ千里と疑るの徒あり。龍ハ九天に登るの徳あり。竹中重治が死期の
遺族々その徳徳を感ざるふあはれども。只朋友の信を去て。彼後其
道ハ通ふるの。其に亦頼り。り。つ。ご。ん。や。忠。か。ど。小。秀。吉。ハ。竹。中。中。木。主
信。が。遺。骸。を。獲。り。使。者。と。女。去。一。面。向。て。重。治。が。病。死。を。告。直。家。が。降。参。の

事。之。個。ひ。り。り。小。信。長。一。竹。中。が。卒。去。と。大。小。哭。一。弟。之。也。と。兄
に。代。ら。せ。播。磨。境。下。行。を。り。め。先。希。吉。一。返。親。と。り。て。中。國。一。國。ハ。傾。て。よ
里。秀。吉。に。任。せ。し。れ。を。り。れ。よ。料。取。を。り。と。り。は。し。町。守。の。令。せ。り。り。之
此。重。交。命。を。奉。く。屯。地。に。播。磨。境。下。行。を。り。親。意。と。り。く。秀。吉。小。信
一。軍。軍。事。と。物。け。り。備。又。小。西。保。九。希。ハ。信。希。吉。山。よ。及。播。磨。境。の
始。終。と。控。小。足。藩。を。り。門。禪。人。質。の。事。を。言。費。り。り。直。家。播。磨。の。神
を。り。し。六。保。九。希。勝。を。進。め。り。曰。八。希。希。と。人。質。と。去。り。と。秘。藏。に。す。り
ま。り。初。希。由。急。と。れ。誠。信。の。顯。る。と。り。後。あり。刑。や。秀。吉。を。留。せ。り。り
と。厭。ひ。り。り。美。心。あり。と。疑。り。り。遠。遣。人。質。の。事。に。か。り。り。竹。中。心。と
女。り。り。八。希。殿。と。出。り。り。り。小。夫。勝。扶。り。肉。の。を。り。た。希。吉。を。離。れ。り。希。吉。復
し。り。り。人。其。上。女。と。一。行。出。り。り。を。り。播。磨。小。苗。め。り。を。り。す。り。中。り。を。り。簡

中より之を九弟不肖なりといふも忠義と過しても懐するや
 の微も痛心中に悔を登りて始終將領が陣中不在て白面を膝扶け
 に見せしけり。黒首に問者となりまのを陣中の勅指上方の風陣に
 知に注伸まうとを看しと利害不倍せしむるは直家渡りて蒼蓮
 あり大澤若量の壯士なる。汝が勅め不同意を云んと愛子八弟と人質
 として九弟成勝扶へ。播磨平山へ送りし。秀右は悦び意を屬し
 有り喜ひ。我子の如く款待されし。小西九弟へ頼てより。君臣の義と
 約せしこと由急膝杖といふ名をりしに信義とて秀右は仕
 へり。わがふ荒花も才智と感へ。加へ後將同然不味意あり。備用と
 命たり。其後並家名代として。瑞子與太弟基家と荒花も導助
 して安土へ奉り上りし。信長安土に對面しりて。本領安土の能事と

賜り歸國の儀に毛利家一敵討の意見と人と盟約ありて歸せし。六
 果してその義と做やとふ。毛利輝元大に怒り。浮田と制し。九さるや
 と既に軍と發首人となり。然る不秀右の指あてて。浮田の長尾忠成
 前もとりし。台門に下。南條伯耆守元次。小鴨左衛門進元清と前
 撥らせし。是は友人。忽地織田家に歸馬に。領國小治る款出あり。噪
 動容易ありとざり。なれば。浮田と責む。増てや播磨の別不扶助ま
 と。播磨の義本など。救ふ力の及ばざる。孫小。續後。の通路絶果た。八弟本
 村重も。伊丹有基の城不在。駈りて。尾ヶ崎へを逃さる。是八月廿二日。備又
 播磨之本の城不。決漸く。威勢衰へ。去糧も稍匱乏。毛利三家。六
 援兵と。且夕待といふ。といふも。其音耗さる。り。將率借に。あつと。悔
 也。然る不遠春中。國より。別不家扶。儀の去糧と。夥しく。積せ。兎も兵

右史同内藤五江にこれと備らせ。播州魚沼を掃くせり。秀吉右史よりこれと悟り。通路を蔽く。新徳を遣はし。安藝へ返り。懐六甲斐の動靜あり。なほこれとて城中へ通し。合を暗号と定め。三本城へ兵糧と運納せしむ。と存び。魚沼に船を將せ。九月九日の夜とて。見玉か方より三本城へ密使と遣て。十日の夜月西。峯に傾く。おの方より平田の背。活谷大膳が陣列と彼見。然して兵糧と納る。際。烽火と暗号に城中より。即地小旗を發られ。内外齊しく。搦起る。事十分に満足。と。東送る。伏別。長治。執統。これ。同じ。當夜情。地小指揮と傳へ。豊鴻市之進。去。橋本。平次。活谷。友。丸。門。外。小。百。有。餘。人。の。去。と。傍。三。本。城。を。潜。出。せ。り。魚。沼。の。濱。に。到。り。中。國。勢。と。謀。合。せ。八。千。餘。人。の。去。平。に。兵。糧。を。持。擔。せ。その。護。者。と。して。生。

三本城の戦
平田の戦
い三本の戦
二十日現在

石中勢野。秀吉。於。見。玉。大。丈。寸。び。に。三。本。の。道。守。知。者。も。活。谷。活。谷。云。橋。が。百。餘。人。九。月。十。日。の。夜。の。才。天。賢。原。室。山。と。り。ち。過。く。三。本。の。城。中。に。投。入。と。も。然。不。ふ。羽。柴。秀。吉。が。搦。安。た。る。傍。寨。の。う。ち。南。ハ。要。崖。堅。固。な。れ。ば。容。易。破。り。づ。一。小。の。方。有。る。平。田。の。傍。寨。谷。大。膳。盛。好。が。守。ま。る。隊。列。へ。安。藝。の。大。將。生。石。中。勢。送。兵。五。百。餘。人。と。率。し。五。の。才。刺。と。報。る。ころ。平。田。の。小。寨。小。推。進。る。遠。近。に。城。へ。兵。糧。と。運。納。人。と。辨。り。け。り。生。石。の。諸。兵。に。城。と。奉。さ。せ。一。時。小。破。ら。ん。と。搦。起。る。由。也。城。中。大。に。噪。勃。る。上。と。下。と。と。初。搦。め。た。り。城。大。將。大。膳。智。勇。具。足。の。勇。士。あ。れ。ば。噪。ぐ。士。卒。と。制。止。す。我。今。進。兵。新。防。人。其。隙。小。城。中。隊。伍。と。立。よ。と。遣。兵。僅。小。女。四。人。と。率。送。一。國。風。を。閉。く。突。發。す。正。魁。の。款。と。一。部。を。の。り。難。起。搦。伏。殺。倒。し。る。其。勢。に。中。國。勢。頼。葛。る。活。谷。三。本。を。遣。



中國
 勢大勝
 谷大勝
 欺く三木の
 城中へ兵糧を
 容る大勝猛戦
 殴死す



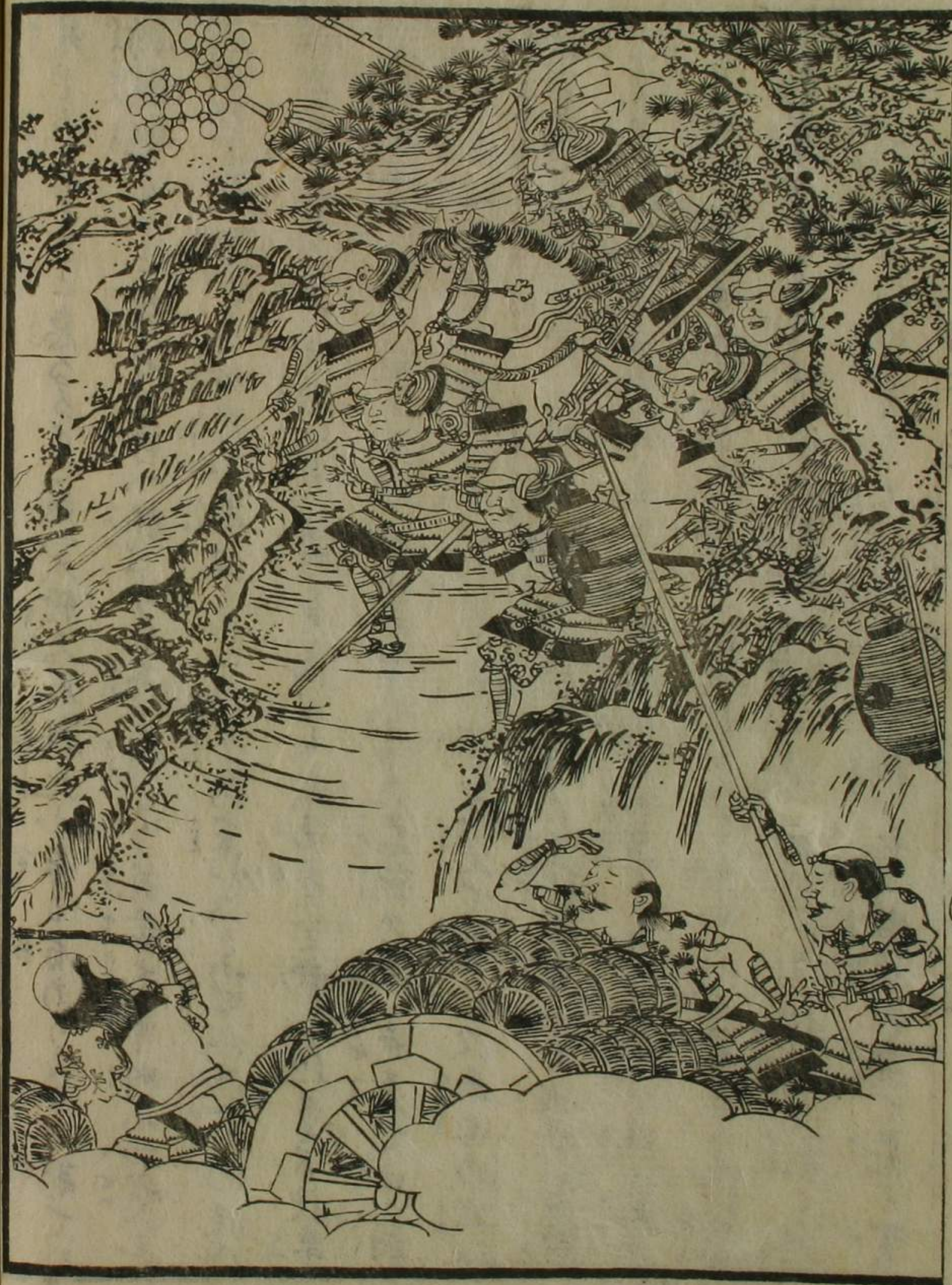
豊臣詰五綱卷之

△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本

返に。あつとつとを。秋を八十倍する大勢のれ。被盡すこと能はば。
一遭城に退入らんと。逆者と強めて退くと。秋の大勢逆寇来る。着投し
せんと。轟けり。る。大抵。落び。扱て返。涌。が。像。さ。秋。中。へ。車。輪。の。像
近投て。右。坂。右。隙。隙。も。す。當。不。當。と。擇。を。て。七。威。多。打。小。殺。働。し
り。色。に。累。積。流。血。地。と。え。せ。ん。花。炮。突。又。天。と。藏。と。これ。が。た。あ。小。中。國。勢
被。死。人。多。く。と。つ。と。を。交代。勢。數。多。ま。れ。ば。了。小。勇。る。大。抵。も。決
石。す。石。を。牙。と。持。た。せ。乱。軍。中。に。腹。換。飲。里。ま。う。う。首。刎。零。し。く
際。く。こ。を。我。損。し。た。れ。遠。際。み。あ。の。を。掃。と。平。田。の。有。途。より。運。来
里。之。尚。美。村。の。小。嶺。に。登。り。暗。号。の。機。烟。と。揚。た。れ。ば。三。本。城。中。に。大
内。山。城。も。こ。子。餘。勢。と。及。び。久。尚。美。と。當。て。推。出。と。備。亦。平。田。の。城。中。に。大
防。禦。の。準。備。と。あ。ら。わ。る。機。會。あり。そ。時。波。も。大。橋。の。門。へ。城。門。近。く。進

△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本
△今西の三本

来り。攻着ること急るること。後へ大將大臨戦死と。告る者あり。な。六。形。て。ハ
防。我。愜。え。と。秀。右。陣。へ。新。つ。り。其。と。听。り。流。箭。も。即。時。小。加。勢。を。せ
人。を。あ。ら。じ。然。ど。も。時。境。小。勢。に。く。秋。中。の。事。と。い。ふ。せ。ん。只。方。勢。に。ハ
如。屋。々。と。つ。と。一。子。餘。勢。も。秀。右。も。つ。り。久。尚。美。と。當。て。絶。々。と。彼。率
と。諸。而。の。杖。寨。へ。遣。し。五。十。人。ま。れ。百。人。ま。る。魚。淵。の。溪。へ。着。着。て。中。國
勢。の。長。船。と。奪。取。陣。と。つ。つ。と。指。揮。を。傳。へ。て。藝。地。に。平。田。の。城。へ
絶。着。着。れ。ば。捕。獲。た。る。中。國。勢。大。水。に。た。れ。と。一。城。と。息。と。を。次。せ。ば。攻。起
ら。ら。が。子。成。凱。と。る。る。も。ま。ま。や。後。面。が。出。陣。し。ら。ら。と。後。で。敵。と。前。後
より。喊。を。作。り。て。揉。起。る。秀。右。これ。と。快。息。し。先。や。久。尚。美。と。三。本。に。降
と。形。裁。奪。し。と。下。城。と。し。蓋。坂。の。頂。小。禁。躰。に。一。千。餘。勢。と。固。く。列
伍。く。正。一。文。字。に。征。お。ら。し。大。内。山。城。も。賀。相。が。こ。子。餘。勢。に。突。て。免。る。賀



豊臣五郎左衛門

豊臣五郎左衛門

相隊伍と翼に開け推捕稠人となりて成流をさうへ。碍擬せは
 らげうら心冠小馬と騎め宛圍名と親をさ像く山より征下り竹華
 の如き歌中と十字に刺く突倒るし。巴字小遠りて輪殺し鬼神の像
 く怒喝するへ加友後傳片相儼るり。天物の像く飛裂するへ降演
 握尾羽板儼るり。遠猛勇に夥の二本勢。忽地血場に禍類され
 起くんえなるは。秀吉久小聲奮立歌の令く敗風をさどいま一
 破盡せ懋めやとゆめと叫り喚り。最上廟しく下報をせ。諸勇士
 はよく後起次起突を二を三に攻着るる由。二本勢なりかへたぬ
 層に右横た撲ふ散れける成山城を躑断とほしえくろと搦と推把て
 進撃敵と搦鳴。汝敵を成退る。糧を切ると絶ふ。武門に望む
 俄死する。本意とをくくろえする。成地軍の一瓶の小隊なるを
 死す。

是く進惑ふ返せ度せと指揮するはを統勢こそに懋まされは死る
 も回下りがく俄死せんよりの斬殲せよと喚叫人々涌却き中に統一
 装秀目。奥隅源左衛門といふものあり。群は援する別勇を七と情
 所と統練あり。氣貫活き者なる由。浪基波連羽柴の陣中河のひ
 諸番の技察へ潜投て。歌と毆こと。屢度あり。初々をさと毛知さ
 諸番の軍の若るふより。源左衛門が所為なる由。各これ成く知
 音楽と大に悟え。諸陣小洵く奥隅と毆提登りと指揮あるところふ
 目前正魁に執て返す。奥隅源左衛門と叫りて。奮働すると看よりも
 厥は後役する。糧絶るるを。敵をか毆と聲ににむりり。八方より。餘節間
 はくろて推提搦激度にせんと着起る。奥隅更に殊とせ。日來に倍
 せし勇を顯し。百振子動るるやぶ。その暴激に當るる。撓むを

右いせまじと堀坂基内踊出大立ち力りて探合せ才助をうり廻ひて射
 撃り候て見んえらると堀尾右膳柱来り基内小臂力を勅せ三人六臂成
 奮とせと輪轉流波小我ひくと二本の陣より振橋杯不帝憤突みし
 堀尾右膳に撃て蒐る右膳はたりと真淵と堀坂麻治小任せを振橋
 杯不帝に探合せ此虎躍龍の威をわらひ二三十合戦あり備亦真淵
 源左衛門の杯長に搦れども筋力次第に慍り来て圍臂とありて水返に
 基内これ小氣と懣はたさうめく遂に源左衛門を斬り遂にこれ大橋
 の歌を色首と毆て下愧とと源左衛門が首檢誠大善声に呼り喚
 たり秀右の實檢に候へりまると堀尾右膳も振橋杯不帝を御地不
 糊汰七澄小首と檢到て活に貫き飲然として返返と其外加茂後傳
 序相かめく激し我も二本方並び顔起遠駒平田に攻蒐里生石中勢

とをうめうて豊海渡色去橋の門久為兵の軍荒ふくと聆先救
 えんと羽柴の隊列の背頭より威を作て攻蒐色を山城もこれと
 て諸勢と懣す和ほり接合せ人と轟めれ起羽柴の急軍返返
 して背頭と防人とうりると秀右例の大善に後之款に心を累
 ん余一文字に突費して示ある款を歩破と中國勢はもや既小臨
 奔に入れたる自滅する事必定あり進め進めと呼り色一旬未言を
 命に背ぬ彼率們らろえと面も觸び二本勢に怒潮の如く突
 く蒐る後より進来る中國勢は今秀右が大善に下知する綱の指
 針とらて頼て智謀の大將と懼怖る秀右も色一旬ある奇計ある事に
 やと心迷う進得は猶縁ありる機舎こそわ色那山遠谷の扶寨よ
 り後走に北来る中村孫平次官執若任房加茂此内淺野深き清海威

と化して横際より突寇はく聲々に明石真淵一擗倚たる。歌ねあまき
奪投されば自方十分の猪利あり。進めやまめと叫えりたり。これま
ましく中国勢撓らんとて後漢方より毛利の彼卒走來り。歌ね河
と驚い出自方の船を棄投んとし。事急るまに救をせゆと告げるに
中国の諸士駭噪に。船奪られしに慥とて。生石とてめ野原火
慌忙と返すも。と云糧と運ぶ者率にも。僅まをたらに糧を裁たる馬
車さへ歩弁く。哨方らんとし。礼走と中村官部。の軍勢ハ中国勢ハ崩
ろと。所顧もせなく。二本勢ハ鏖銘とろへ。擗菟る。いと。敗風とる三
本勢恃之断たる中国勢ハ途と失ふと。彼走し。他軍ハ後兵かたり
ていふ。雄氣壯るれば。こそ小款なること。総て。總放軍よ。を。か。ひ。る
羽柴が諸勇士退菟る。分捕る名さぬ。ぐ。り。り。の。是。が。た。ふ。小。別。不。方。殿

死する者多うりたり。山城守も危ふりしと。若と清なる勇士等。實
相小易りて我死す。其門く。い。大。内。基。大。吏。同。三。大。吏。那。波。丸。を。ね。監。三。枝
小。右。衛。門。尉。橋。平。左。衛。門。三。宅。与。平。次。小。野。持。左。衛。門。城。堀。保。左。衛。門。守。遠。藤
以。大。内。相。相。城。門。測。ま。を。還。さ。る。成。羽。柴。秀。吉。を。い。く。指。揮。か。し。着
投。み。せ。よ。と。接。ぶ。り。か。亦。も。危。う。り。る。所。漢。河。彈。正。忠。定。範。城。中。よ
り。離。て。登。山。城。も。ふ。り。か。り。て。進。來。る。款。と。防。止。め。難。あ。く。賀。相。と。還
取。ら。せ。彈。正。も。ま。る。其。場。と。ま。り。其。軍。し。七。濛。く。我。死。し。り。
秀。吉。今。い。是。中。を。り。と。鐘。と。鳴。し。て。自。軍。と。纏。め。凱。歌。奉。て。隊。邊。成
攬。さ。び。志。つ。つ。と。凱。陣。し。り。形。も。亦。生。石。兎。玉。の。中。國。勢。ハ。慌。忙。と。平
回。り。真。淵。の。濱。小。來。り。ん。ま。羽。柴。の。軍。勢。ハ。方。り。り。お。ま。ひ。く。小。出
來。り。夥。の。船。と。棄。投。ら。ん。と。中。國。勢。ハ。取。ら。ま。り。と。我。先。小。と。取。み。ま。後

ると羽柴が諸勢ハ故意と初揺りさ。中國勢と悉く。飛ぶ家々。一厥ハ
撃棄せと指揮のた。冠隊の多統教百挺。霰の儘く撃菟。一かを
生石兒玉。倭くあり得。櫓楯とをわめて逃去たり

別所滅亡秀右圓鎮掃別屬築城姫路

一步と過失と。己ハ千里と弛ること能く。備も二本釜山の城中に。姑
そ小恃。一勇士。三十三人。既死せさせ。今城中。又残ること。海に。僅十
人。不足。さう。なれば。若び。我ハ威勢も。あ。賸。毛利。より。強。これ。程。を
納得ること。祿も。己。却て。羽柴。が。ため。小奪。これ。困窮。い。あ。極。さ。う。て。落城
且夕に。暨。び。たり。秀右。既。小。遠。蹙。蹙。と。う。委。ふ。二本。城。の。陥。落。程。ハ
あ。と。猶。も。款。の。機。と。奪。え。んと。口。方。り。り。り。扶。塞。の。為。據。と。成。近。く
憑。城。二本。城。内。を。沈。視。さん。と。南。ハ。八。幡。山。西。ハ。平。田。西。ハ。山。小。長。尾。川。より

八幡山といふ今の小長尾川

二本釜山といふ今の小長尾川

東ハ八幡田の色。まを。薄。く。と。懸。控。され。二本。城。地。と。今。ハ。や。其。際。み。町
に。過。さ。う。り。り。結。寨。の。嚴。む。こと。據。障。ハ。一。丈。有。餘。さ。う。と。是。と。三。重
小。結。統。一。相。植。心。據。と。奪。へ。さ。を。表。面。ハ。柵。扉。南。垣。と。堅。く。結。ひ。門。の
面。に。ハ。大。楯。小。索。と。株。も。小。張。控。孔。楯。と。我。連。絲。橋。の上。ハ。大。衝。車。と。お
さ。性。者。の。人。と。さ。び。く。孔。洞。十。路。と。都。と。禁。扉。と。楯。内。ハ。六。段。の
諸。軍。勢。が。陣。層。と。綿。と。と。遠。並。べ。夜。ハ。燈。火。の。以。濟。さ。く。死。行。と。う。ち
鳴。く。板。人。刻。く。に。懈。り。ま。く。加。后。後。傳。片。相。傳。一。時。交代。に。これ。と。獲。り。
水。漏。さ。と。捕。圍。む。日。を。二本。城。中。ハ。密。使。と。も。通。さ。る。と。さ。路。を。さ。え
嘆。息。一。果。く。忙。然。たり。其。八。關。を。標。別。する。倭。丹。の。城。主。荒。本。振。津
村。重。八。八。月。廿。二。日。の。夜。有。星。の。城。と。潛。出。尼。ヶ。崎。一。落。行。々。が。蹟。ハ。ハ
荒。本。が。一。族。妻。子。城。と。ち。り。て。あ。り。り。る。石。に。十。月。又。日。の。幸。り。り。が。瀧



豊臣秀吉の御旗本



豊臣秀吉の御旗本

川一益智謀とそりて有星城中の武士中西新八郎と降参を拒
 も中西に謀合せし。星野左衛門尉山脇加賀守同孫文吏倣と帰服さ
 せしめ。同十五日の夜小舟りて。瀧川人救と上福塚まで曳揚させ。河口に
 三か所捕てしと悉く焼掛を色。遂に素を城とす。しるに。城兵不
 らく困窮したる。响小信長使者とそりて。荒隈尾ヶ崎の両城と。ま
 やう小岡様と。荒本か妻子の助命と。と。東送らる。と。いとも。村重
 更に送られ。織田信澄とけりて。有星の城と。素提せり。然し。城
 中に留りたる。從類男女二子餘人。まじり。殊殺せし。と。三本城中
 の将卒階下。の風聞と。傳所。身のもと。堅て怖る。と。備赤羽柴秀
 吉へ。八幡山より。三本の城と。洗く。りて。視却ま。小笠原も。や。盡る。機
 小く。情断る。勅禱され。い。ま。一。心。して。屈。指。さ。せん。と。同。く。十。日。未。知。に

南の橋へ人救とつけ置。山下を度く放火を。し。め。合。秀。秀。長。に。多。勢
 と授け。と。秀。の。尾。北。城。と。攻。せ。る。小。城。中。初。こ。困。乏。に。れ。ば。適。き。ぬ。初
 と。是。悟。り。會。自。害。し。て。殞。り。たり。秀。吉。は。ま。ま。三。川。を。進。ま。山。城
 中。賀。相。が。守。り。堅。り。新。城。と。單。騎。急。に。攻。起。り。小。賀。相。一。歳。に。及
 び。て。三。本。の。中。城。に。逃。投。り。たり。左。右。小。此。歳。も。晩。果。す。天。正。八。年。の。春
 と。近。く。是。に。か。い。く。筑。前。守。時。今。ま。ま。小。敷。一。たり。と。城。中。へ。使。者。と。遣。し。
 義。と。守。り。の。大。將。に。に。と。そ。り。と。そ。り。と。救。ひ。あ。年。不。朽。の。末。ま。で。え。未
 練。の。汚。名。と。殘。さ。る。恩。慮。を。そ。り。ま。り。と。れ。と。懇。切。と。渴。し。て。個。遣。け
 る。に。て。長。治。大。小。威。快。を。し。身。彦。と。進。友。之。と。招。き。秀。吉。が。東。送。る。末。倣。に
 道理。を。極。り。若。と。汝。と。賀。相。と。遠。之。人。の。生。害。を。一。後。之。士。率。と。助。得。さ
 せん。汝。が。こ。ろ。い。ふ。と。つ。小。友。之。荒。糸。と。歩。美。ひ。有。係。の。別。所。の。嫡。統。り。り

終こそ其取に意の属せりふなき小舟も一願の存とこれと稟出さるあ
まづるが實に大張るる又仁よこそ。既ふ御覚期ましまさるる。登而御
秀吉に。那と通達し。又のし。と勅め小長治安堵あり。然らば汝書翰と記
得。遠傳と能く做よとのふに能書の登ある友之膜拜とよとてこれと書と次
小我父ある山城守賀相と招き。この門禪とや。とらふ賀相心小深されども。
長治友之が覚期小愧て心づ。はも同意せり。友之書翰と記得。宇野
外右衛門にこれを齎らせ。涉野孫兵衛陣中までつ。とらる。長政別而
の使者と伴ひ秀吉の前小披露し。其文言と讀上さる。

從去々年來敵對爲做參候事其所謂非無今更
不能述素意是僉時節到來運命之所極至此何
可嗚臍哉只望長治及友之賀相之三個來十七

日以申刻可致切腹之間所殘士卒無咎列首者
誠以不便也怖垂憐愍而被助者我々生々世々
歡不可過此候此旨具賜披露者也

天正八年正月十五日

從五位下彦之進友之
從五位下山城守賀相
從四位下待從 長治

淺野彌兵衛殿

秀吉これと聆り。里。洞と流し。七感歎あり。兼和の趣返書とあらせめ
芳樽十荷佳肴十盤ととりそらる。淺野孫兵衛此は伐命に。二本の
城中へ。僞らせらる。長治友之出陣。設席の禮と厚して。まづ秀吉の福
くる。酒肴と受收め。荒茶と返書と披。閱るその文に曰

貴札到來則令披見候抑從牢城之初數度之合
戰城中雖失勝利全非拙所為然今運命難遁
來十七日以申刻長治友之賀相儕被致自害所
殘士卒雜人僉悉被助度之条實大將愛士之道
恰殊勝之至也感其仁心則落淚敢不止只今如
被申越於有自害者駛卒們助命赦免之事不可
有相違候猶自淺野彌兵衛仔細可申述舒古證

大正八年正月十五日

羽柴筑前守秀吉

別所小三郎殿

別所彦之進殿

別所山城守殿

斯の如く言詞せしむ長治友之大に歎び秀吉が仁心と感洋みし使
者長政と歎めて懇誠と竭して帰したるが既に十七日ふ至りぬれば
別所小三郎長治舎弟長之進友之城中の諸士と叫集めし是れ
を二の右義と掲げ牢城あしたるはかたがた皆ひ全無甲冑太刀馬
具等移出して分與へ筑前より歸りたる酒肴と安排愉快酒
宴と催し先や今生の離別せんめり泣き別れんより笑ふも舞はん
は身もも福難して使く憂とくせや嘯くと聲繞りてはたけし
旅趣とふるふつけ名残の由何字につけまは開く笑も久き懐ひし
くも実をる涙は咽の息通くば勿体なやと沸出る涙と拭ふ士卒們ハ
袖を襟といかせん小三郎へつる命は小狭骨筋が開き生者必表
のこころいと掬えりしと舞ひぐる妻も死出小三郎と表殿



豊臣記五編卷之二

豊臣記五編卷之二

に入来まへ長治の室業作と入るよりその心底と悟りたるは二女の更
 と判殺してその身も布時に自殺せしむ。此小坐席と双なるを妻室
 八日ひるる妊身なりしが預て適きぬ道理と覚悟し。共に又伏し
 へ所さるる無笑に堪ざるそのと服前より長治の心や痛心ありける長治
 へいへる易しと本の席に立返り。申の割小を近せられ。肚刺る半後か
 一つ毛山城と侍るふ。賀相嘗て来らざるを士と走く程後さる
 ふ意未練なり。大内賀相遠期ふありて愛心あり。士に言て恨ける
 かり。今更俺們的に死と遂て士卒と助る不徳あり。卒城慥なるもの
 ころべ城小火と無将率借小我死するを本意うれい。そを徒死す
 ぬれと又同心せざりしかば長治大に憤り。我目下既小秀右と盟と望
 ふ。物と信るこそ小依て款うらるも。我義の成ると感得して。酒肴と

愧里者敬以。諸士はを遠若と分與て。率くや遠小決たり。然る
 と賀相養物不肖き。彼後の悪名と振えむ。腐傷未練の奉山か
 り。程令今日死と適するも。永く生さず。身はを以て攻殺されて愧
 ん。おる案の不為にあは。諸士達より小糾筒やと救圍く罵るに
 を。諸士も賀相が心底と憎む。此決りて大將の仁義と令せんと。大守
 に在る賀相と款出て斬殺あり。その誠と長治小探りければ。是
 に安達し。云来然も心静に傷害せんと。長治友之次身小座し。肚刺
 刀手に抱あがり
 今も唯恨も何と。諸人の命にせむ。我身とかりを。長治
 命とも惜まざり。たり。持弓来世せよ。その名と名あり。友之
 と梓世と源と七。肚刺し。小宅肥。常治。初。振揚

君ありて愛身此命あまうせん侍りて甲斐はるきも

とにむきとてはく洞とたふまゝ兄弟と勅前はし。其身も若くは成
備りく。胆十文字ふり刺さ際くこそ須美され嗟乎惜ひる大將長
治行幸はそりて廿二歳舎舟友之廿一歳夕。遠英雄に替替て大内山
城宮賀相の嫉妬の心深とそりく。三年天正六年より軍城のその際以勇之
と失ふこと八十餘個。別所の系講と影絶せしめゆくまらるる若と穢
て。可代までの胡盧とそりぬ諸も之將軌則の如く。相疑はるる若
右物にさくも遠もは。去年と皆助放ち。三個の賊と安土小幡り。別
所一黨威失て。播州一國平治のうと。仔細小言状をうくるに七。信長
大に歎惋せしき所感帖ふ添らそく。恩賞夥賜るる。秀吉之本の
城小扱て。まづ國中の政勢を定め。寛仁と施て。庶民と撫育るる度と

布て鄰國と化さる小但馬使を兵他若頼め秀吉の旗下に属し
威風と四國九州まで吹轟して廣大なる遠近におつて筑前古在國安
途の工夫成る。新小幡城と結構せんと黒田官を清に高強くされも
秀吉國界と画出して大拍秀吉に献して還り。遠之本谷山の城廓
へ最もを費の要産なるも。急境ふして奉調るる。國皇の居るに
地はあつた乃夫精しく地の理と察る小幡本郡振踏こそ。秀吉不
窮の佳境にして。政勢軍用ふつみがる。全く備るのそりるに。要産もま
嚴る。海陸交通如意なるをて。四民もよ。遠地は集る給に。警昌
の備地るれば。よろしく振踏小幡居る。武威と海西に及び。つと。東
理分明小初めたるに。秀吉の意に同意。つ。四之親察と去除て。要
産自由に。万端如意なる地の理と構え。相謀るる。料素して。黒田淺

野をな行とみさめ。三月初旬に浪平頭效務の長城首尾せり。長右
これより姫路に搬居國の政事こころしくかくよく根本を強うて後中國
の地も攻投らんと。その準備とぞかゝるが。浮田と見つゝ款地と穿とせ。
方術の通根も執着人と和泉守に指書し。彼も見情の両方なる。浮田
に城を筑を浮田七五清右衛門尉と有る。同与右衛門尉。妻家。婦子。と大將と戸
門肥前守足立右衛門尉。池田八十右衛門。浮田。地。理。進。侍。に。之。子。竹。務。と
付與さすめ。浮田の城も凝守らせたり。

浮田合戦 浮田基家我死 馬謀和退 款

人情の及波波瀾の如しと。爰も浮田が強さ不倚ること。名へその終と見え
ふも。然も浮田も卒城のふと。小早川隆景早くも所出。浮田。成。歴。
ちんと那より四十餘町と隔と。妻飯山に疎寨を構へ。橋本。由。信。守

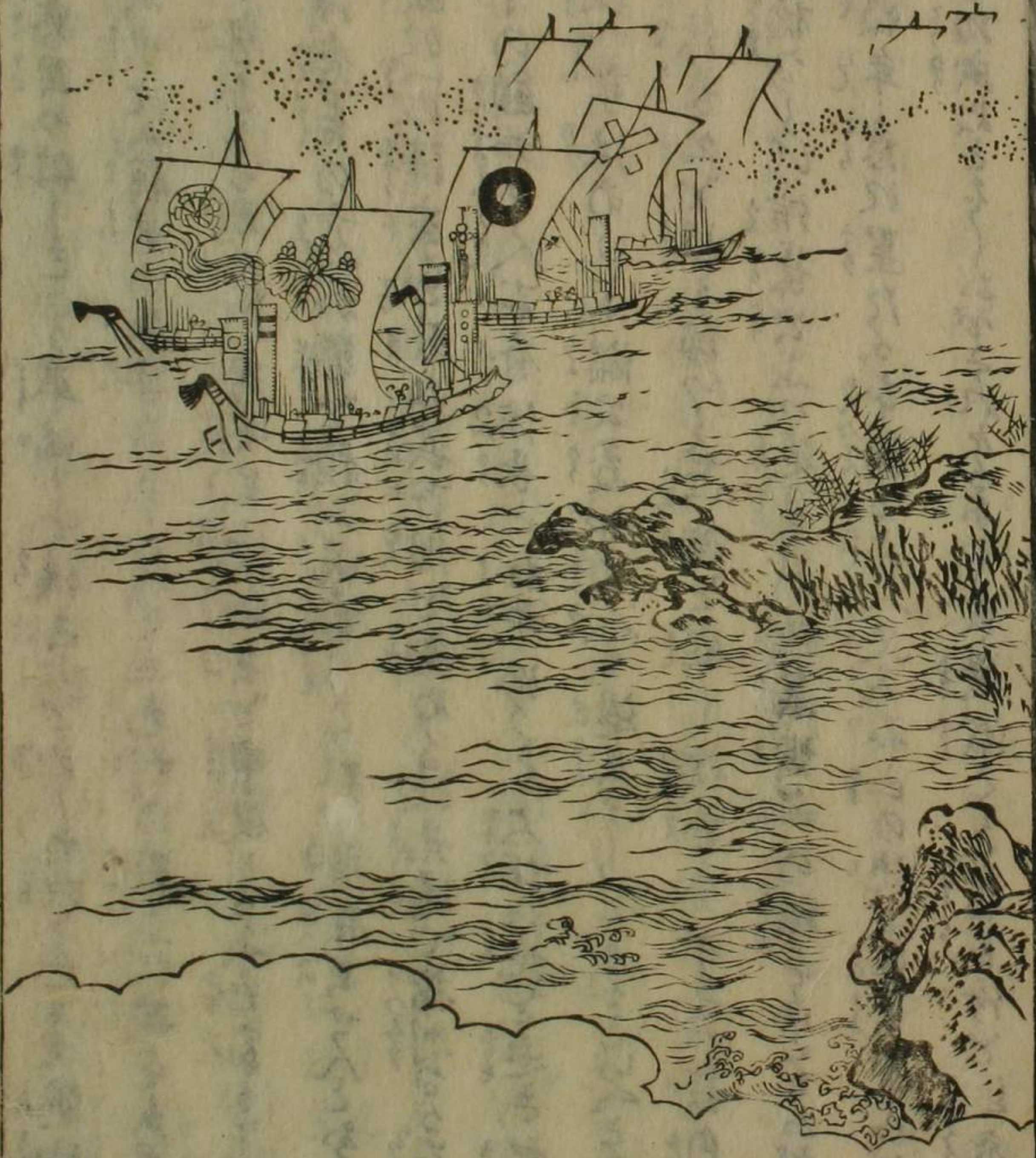
浮田合戦
のこころ
あるは

と大將とて。有地。其。地。也。古。志。清。右。衛。門。村。上。八。右。左。衛。門。後。丹。孫。右。衛。門
権。田。出。雲。守。也。一。子。竹。人。急。に。結。寨。を。結。構。せ。ん。と。以。浮。田。の。士。士。們。これ。と
所。と。ふ。の。こ。せ。し。と。妻。飯。山。も。推。進。て。修。理。を。拒。で。攻。起。を。是。れ。毛。利。の。志。家。人
に。怒。り。逃。返。さ。ん。と。擊。て。出。宮。殿。中。に。彼。方。由。信。合。戦。を。す。遠。獲。初。め。大
將。の。指。揮。さ。す。に。松。の。岡。争。う。り。に。遂。に。双。方。大。合。戦。を。す。浮。田。家。より。大
將。與。右。衛。門。基。家。戸。門。肥。前。守。秀。安。自。軍。と。敵。と。と。て。後。色。に。小。早。川。の。陣
中。より。穂。井。田。村。上。の。地。の。軍。士。と。敵。せ。と。推。考。し。逃。に。精。骨。碎。れ
て。敵。刻。が。深。橋。合。戦。の。浮。田。の。志。家。の。め。め。に。起。り。伏。する。大。將。基。家。大。怒
て。奮。激。を。し。遂。に。自。方。の。初。陣。を。返。せ。度。せ。と。呼。ぶ。も。つ。群。組。起。る。款
中。一。只。草。務。に。く。擲。て。入。里。四。角。八。面。に。地。遠。見。暴。に。虐。て。我。ひ。た。り。か。お
拾。の。藤。一。と。是。れ。大。將。の。と。盡。て。取。り。毛。利。の。志。士。八。方。より。推。投。親。自

他先にと敵人の其家猛勇の壯大將あり。自方の繼ぐぬと願ひ地
 に伝せし斬て鏡里歌を夥毆捉とて後以。惟とも知らぬ歌陣より。吾
 統一費飛来り。哀之與之命其家。子檀板を撃つれ。鬼神を
 びしうの堪るる。馬より横と踏躰る。成歌を夥走倚。終以首を毆
 捉し。毛利勢これ小氣と以て。まろく鏡人で逃散せり。淳田勢ハ
 起是もろく。表れり。と戸川秀安。兵一騎より端より。大將基家を毆
 れり。小面自帰らる。倍小戦死する。馬ひ返して。歌陣
 正裏にたけし。潮を投。殺神に欄。然る。小羽。柴。荒。守。淳。漢
 継援のため。と。涉野。保。清。長。政。ふ。三子。竹。法。と。自。與。を。七。兵。船。殺
 十艘に捉せり。奥陽の渚と表帆を。備前。児。清。へ。と。を。せ。り。が。逢
 けり。所ハ。中。國。勢。と。不。耐。の。合。戦。あ。り。り。由。志。長。政。基。地。ハ。那。地。一。擧

拊。瘡。し。や。遅。し。と。陸。地。に。登。り。英。準。二。子。有。作。人。中。國。勢。ハ。横。陸
 より。恐。怖。の。像。を。勢。ひ。ひ。く。潮。て。菟。る。小。戸。川。秀。安。こ。れ。小。ま。ろ。く。替。力
 と。得。て。勃。然。と。七。色。と。懸。ひ。こ。れ。が。小。毛。利。勢。毆。殲。する。事。多。う。り
 たる。由。志。も。合。戦。の。こ。れ。ま。ろ。く。り。と。急。ぎ。残。兵。を。率。領。め。表。飯。山。逃
 返。る。肥。前。守。も。長。退。せ。り。浅。野。も。業。肉。知。れ。日。の。暮。を。ま。に。力。を。く。
 博。漢。の。城。に。退。さ。る。が。隆。系。勢。と。若。る。と。輪。懸。く。思。慮。と。め。ぐ。る。小。自
 軍。の。結。案。も。い。ま。ご。成。り。む。秀。右。の。加。勢。も。到。着。し。ぬ。人。是。亦。三。子
 作。人。と。聞。たり。和。泉。守。も。與。志。邦。が。毆。する。小。憤。怒。と。表。し。勢。込。り
 攻。蒐。する。バ。自。方。ハ。お。か。く。難。義。する。人。先。む。る。胸。ハ。刺。あり。と。い。つ。バ。志。は。若
 族。出。軍。して。博。漢。の。城。と。攻。撃。さん。と。市。村。小。備。軍。ハ。陣。泊。り。二。万。餘。騎
 と。率。後。之。備。前。博。漢。小。推。進。る。隆。系。元。來。慎。之。淳。田。大。將。も。自。分

秀吉 備前 澳謀 七 七 早 七 七
 吉 前 小 船 滋 小 川 早 七 七



豊臣五郎景春



豊臣五郎景春

の隊儀と突圍め破るる準備して後去士と出して攻むる。遠駒
 崎の城中に羽柴の加勢ありといふも。毛利の勢ふ比較するに
 十分の一の小勢あるも。戸川秀安。墨山一助と東投するも。重家も
 微力なきに。秀吉の方へ加勢と頼ふ。筑前守これと駭援せんとを
 ふ時。後一障事出来ぬ。其所留を鞠ぬるに。先達て枋州なる石
 山本願寺の願如上人。右府信長と和平あり。大坂の地を退き。死
 川等の杜へ移住ありし。備公若如上人も。退去せり。たるといふも。
 門徒の兼信長公と恨まゆつせ。一擧と起し。發動し。たるに。畿内
 なるも。搦めし。信長公の遠より。代。繩集。機群の鞠るとも。おが
 しめ。数年意に呈たる。本願如上人。又。石山の地を退去せし。おが
 天下統一統の功成ぬと。おがされたるも。最。漢。滅。く。も。舊。長。保。と。述。放

おとせつけらる。その面くは。依久間。右。衛。門。尉。信。登。子。息。甚。九。年。林
 依。濟。安。藤。守。保。り。各。然。せ。る。罪。な。け。き。も。首。の。意。忠。と。致。す。
 將。不。せ。も。色。々。ら。わ。る。諸。士。も。恐。怖。の。懐。と。な。り。て。安。心。し。り。たり。
 秀。吉。も。遠。等。の。詞。不。法。を。誣。言。も。ま。り。し。て。畿。内。の。強。弱。も。心。に。呈。さ
 べ。油。石。の。加。勢。を。難。養。ひ。が。り。故。を。信。憑。を。ぬ。れ。し。一。の。計。策。と。之。夫
 一。の。禎。と。悔。漢。不。進。する。款。へ。小。早。川。一。隊。あり。隆。原。原。來。智。謀。あ
 り。し。慎。密。に。入。り。し。れ。其。機。不。察。し。て。奇。計。を。設。け。退。去。せ。せ。る。と
 思。着。秀。吉。も。つ。つ。大。軍。を。て。油。石。へ。出。陣。あり。し。と。自。方。の。諸。軍。へ
 詢。係。し。勢。一。く。准。備。な。し。ぬ。然。し。て。魁。隊。五。十。餘。人。と。數。百。般。に。枋。原
 ら。せ。毛利。勢。が。後。面。へ。追。繞。せ。帰。路。を。断。截。し。門。の。勢。を。獲。人。で。設。提
 登。し。と。披。露。し。つ。降。頭。賀。又。子。官。給。右。佐。房。と。大。將。と。し。て。察。し。計。略

と披露しつれ。バ、博浪宮於奉領。而地に懸懸と信う。其勢也
 千餘人とし。其子一の波率のさなり。大將秀右三万作務ふ。其
 て此馬のよう。普く所候させ弘くさるに。先利家の同者これ候
 意に注伸しつるふ。案よ遠くは。其門依。自方ハ僅二万餘るふ。其
 右三万の加勢あつ。浮田勢と合せも。初合ふ方もけり。其は
 諸と討する。終ふに。改軍に。迄。應たふ。羽柴が。其の進せぬ。波。退軍せど
 人を河へ。か。び。然。は。さ。り。な。が。う。ま。り。や。虚。り。や。い。う。と。海。上。と。突。つ。か。ぬ
 せ。ん。る。程。え。り。た。ふ。潮。通。漁。く。播。磨。洋。より。魁。隊。と。か。り。と。艦。船。員。も
 數。百。に。餘。る。連。帆。旗。標。馬。標。候。に。お。む。さ。し。く。捨。え。し。く。順。風。小。隨。て。航。走
 飛。く。兎。渡。の。澳。と。擇。涉。り。蜂。浪。へ。と。着。き。て。毛。利。勢。の。備。へ。る。後。面。の
 方。へ。推。廻。る。歸。路。と。絶。断。候。り。つ。る。を。小。早。川。の。兵。隊。い。よ。く。怯。さ。降

果一斯と着ける。と。海。へ。藝。州。小。も。既。遠。若。あり。と。隆。景。一。隊。の。合。戦
 へ。危。さ。事。よ。と。駟。馬。と。と。て。還。去。の。詞。候。謂。來。る。ふ。隆。景。こ。是。小。同。意
 ふ。と。藝。州。つ。と。を。還。取。たり。これ。に。因。り。蜂。浪。賀。官。部。那。路。の。城。へ
 歸。陣。す。と。斯。の。よう。成。若。け。き。バ。秀。右。然。こ。と。大。に。河。を。掌。拍
 くと。大。笑。し。け。り

繪本豊臣勲功記五編卷之二終

